

有害因子の経母乳移行に関する研究総括

川 名 尚

昨年度に引き継ぎ母乳中の有害因子として塩化ダイオキシン、サイトメガロウイルス、B型肝炎ウイルス、成人T細胞白血病ウイルスをとり上げ研究を行った。

母乳中の塩化ダイオキシンを測定することが当面の目標でありその検出法の確立を行ってきた。塩化ダイオキシンの中の2,3,7,8 TCDDに最も強い毒性のあることが知られているので、この物を正確に測定できる方法でないと意味がない。今回、高分解能GC-MSを用いて分析をおこなった結果、2,3,7,8 TCDDがよく分離していることが判った。この方法により、母乳の脂質1g中に4pgのダイオキシンが含まれることが判った。今後は、例数を増やして更に検討することになっている。(森田班員)

サイトメガロウイルス(CMV)が母乳中へ排泄されるか否かを検討した所、初乳には、CMVの排泄を認めなかったが、出産後一ヶ月以上経つと約20%の高率で排泄していた。

従来より乳児のCMVの感染は、産道感染が唯一の感染経路と考えられていたが、今回の研究より母乳による感染もかなりあると推察された。(千葉班員)

B型肝炎ウイルスの母児感染防禦が既に行われて2年になるが、HBIGとHBワクチンによる防禦効果に授乳がどのような影響を与えているかを検討した。この予防処置により、感染防禦のできなかった例があったが、それらの例が母乳を与えた為と考えなければならないデータはなく、母乳を与えても予防効果が損なわれることはないと考えられた。逆に、興味あることに母乳を与えた群の方がかえって、抗体産生能力が優れている傾向がみられた。(多田班員)

成人T細胞白血病ウイルス(HTLV-1)の母児感染が母乳によることらしいことが提起されてきた。母児感染を予防するために、母乳を中止して人工哺育する方法がすすめられている。今年度は、母乳による母児感染の実際を検討すると共に、HTLV-1母児感染対策を全国的に施行するに当り起こり得るいくつかの問題点の検討を行った。

HTLV-1キャリア妊婦より出生した児を哺育法により母乳栄養群と人工栄養群に区分しfollow upした所、HTLV-1抗原陽性児が生後12,18,24ヶ月で、前者が45%,77%,77%であったのに対し、後者では、僅かに2%,2%であり、24ヶ月でも同

率であることが期待される。(一條班員)このように、HTLV-1キャリアの母から母乳によってその児にHTLV-1が感染すること、そしておそらくこの感染経路が主であろうことはほぼ確立したと云える。

しかし、HTLV-1キャリア妊婦といっても必ずしも同じレベルのものではないようである。即ち、PA法による抗体価が1:4000以下のキャリア妊婦から生まれた子供には、母児感染が成立していなかった。一方、1:256000以上の高い抗体価を有する母から生まれた子供は60%がキャリアとなっていた。(日野班員)

このことは、垂直感染しやすいHigh Risk 群の選定を可能にすることを示唆している。

長崎県は、HTLV-1の高度汚染地区でもあり、自治体・医師会・大学が一体となって、母児感染の予防法としての人工哺育が有意義であるかについて研究を開始している。まだ、研究レベルにある仕事を行政や医師会と共に行う試みには、多くの問題が予想されるがそれらを解決するためのシステム作りに着手した。(辻班員)今後の成果が期待されると共に、将来、他府県でも同様なことが行われることが考えられ、その際の参考となることが考えられる。

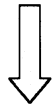
今年より、沖縄中部(安次嶺班員)、鹿児島(武班員)、東京(川名班員)において、妊婦

のATLA抗体スクリーニングがかなりの規模で行われるようになった。HTLV-1の浸透度は、地域差があり、高い地域(沖縄、鹿児島、長崎)と低い地域(東京)で、医師や自治体における対応の仕方が異なってくる。従って、これらの地域での研究がなされ、それを総合的に検討することによって初めて全国レベルでどのようにするのが妥当なのかが明かになってくると思われる。

HTLV-1の母児感染は、経母乳感染が主であることはほぼ間違いないと思われるが経胎盤感染が全く否定されたとは云えない。キャリア妊婦から生まれた児の臍帯血にHTLV-1を検出したという報告がなされた。(速見班員)この点は、重要な問題であるので今後更に検討を加えていく必要がある。

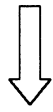
今年度の研究で大きな問題になったのが、ATLA抗体測定法である。例えば、最も汎用されているゼラチン凝集には false positive がかなりあるらしい。また、確認試験とされているWestern Blotting法にもまだ問題が残っていて、この点の解明が急務であることが提起された。

(日野、川名班員)HTLV-1に感染しているか否かは、母児感染予防という点だけでなく、本人が将来、ATLになる可能性も告知することにもなり、決して、曖昧なデータに基づいてはならない。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



昨年度に引き継ぎ母乳中の有害因子として塩化ダイオキシン、サイトメガロウイルス、B型肝炎ウイルス、成人T細胞白血病ウイルスをとり上げ研究を行った。